

見ニ還リ一泊セラル

廿二日寛延元年戊辰八月ヨリ大照院ノ舊趾ニ新築天樹院ト稱シ今ノ大照院大櫻江村ノ寺ヲ爰ニ移サシム是日本堂及靈牌殿落成於是諸靈牌ヲ新殿ニ納メ供養セラル

廿八日切金通用ニ關シ發令アリ略ス大日付同狀

六月二日公歸城江戸禮使兒玉主計

將軍並大御所大納言ヨリ拜受品誠姫へ配賦例の如し

五日公歩行初宮崎八幡社に參拜

同日奥番頭大和伊織御留守中誠姫用務本役ニ副シ一人ニテ勤務苦勞ニヨリ召下帷子一金十兩下付

九日手回組頭空通外記公へ供從歸任即日ヨリ定詰ニツキ拾上下一具下付

十五日當職益田河内辭職益田越中ニ後任ヲ命ス河内ニ刀一腰代金十枚下付加判穴戸出

雲來未年江戸供從尋テ加判毛利筑後酉年江戸供從命セラル

十九日毛利宮内ニ加判役ヲ命ス

廿一日毛利山城守五男秀之助毛利七郎兵衛養子ニ請願許命アリ

同日奥番頭兒玉彦右衛門ニ記錄所役ヲ命ス阿曾沼源右衛門ニ兒玉與右衛門替手回物頭ヲ福間彦右衛門ニ阿曾沼源右衛門替番頭役ヲ目付役張五郎右衛門ニ心涼院裏老ヲ回神甚右衛門ニ目付役ヲ命ス

廿四日木梨彦太郎ニ奥番頭役ヲ命ス

廿九日吾藩長崎屋敷御屋代周布俊右衛門惡計ヲ企テ國法違犯ニヨリ國元ニ於テ處罰スヘキモ元來家臣ニ非ス長崎町人タルニヨリ長崎奉行所ニ於テ處分ナルヘキモノニツキ奉行所へ交付セラル

七月朔日小寺忠右衛門ニ大組物頭役ヲ津田六郎左衛門ニ大檢使役ヲ命ス馬乘役折下喜左衛門流儀重要ノ馬書提出ニヨリ銀五枚下付回神舍人甚右衛門父隠居心涼院裏老勤務齡七十ニ達シ辭職ニヨリ紋章帷子一下付

三日遠近方和智九郎右衛門ニ當職手元役ヲ命ス柿並半右衛門右筆役ヲ免シ大組ニ加ヘ遠近方ヲ中島彌右衛門ニ當職右筆役ヲ命ス井上四郎左衛門ニ京都留守居役ヲ

命シ長井文左衛門ト交代セシム

六日大組頭山内左近辭職羽二重袷羽織下付誠姫付高橋春定老年辭職苦勞ニヨリ銀二十枚下付

十六日水練術公覽ニヨリ賞與セラレシモノ三戸與一右衛門外十六人

廿一日馬來宗六先代以來四十四年兵法指南ニヨリ銀三枚下付

廿三日當役熊谷帶刀辭職堅田安房ニ後任ヲ命ス帶刀ニ腰刀一代金十枚下付

同日毛利甲斐守第五子徳次郎日下窪邸ニ卒ス

廿八日從者之制發令左ノ如シ大目付同狀

惣而供回リ徒之者風俗不宜かさつに候中間共は異風に取拵候故別而かさつに成候向後急度相止可申候主人々々申付候共請人共より斷可申達候奉公人えも其段可申付置候在所者召仕候面々は右體之儀有之間敷事候
右之通請人共え町奉行より急度申渡候間主人々々にも書面之通相心得候様寄々可被達候

七月

同日歸城謁見八組中披露ニ關シ内訓左ノ如シ

近來御歸城御目見之節八組中諸御禮書立を以御披露相成候右相濟候段御同役中え達之儀に付而帶刀役中被仰聞候趣委細致承知候向後の儀何分追而御沙汰可有之候間此段御同役中え可被仰傳候尤去御歸城御目見之節當御歸城之節も書立を以御披露相成候條左様可有御心得候事

同日小笠原二郎太郎軍禮注書軍器形物調査命セラレ數十冊編成提出ニヨリ金五兩下付

廿九日手元役山縣藤助辭職來年江戸矢倉頭人トシテ供從命セラル用所役羽仁五郎左衛門ニ手元役ヲ命ス直書役豐島又兵衛ニ用所役ヲ福原新之允ニ直書役ヲ命ス

八月八日美禰郡長登村銅山採掘且地下救濟ノ爲メ狂言芝居許サル

同日諸臣謁見拜禮ニ關シ訓示左ノ如シ

一御家來中諸御禮之儀近年は御通懸御目見之節も御禮申上候得共自今以後御通

懸之節は控置追而大御目見之節御禮申上候様との事

一不時御禮申上候物通之儀は右之不及沙汰候段勿論候事

右之通支配々々え可被相觸候事

九日大組頭日野勘解由辭職羽二重袷羽織下付佐世孫左衛門ニ鎗奉行ヲ飯田與一右

左衛門ニ目付役ヲ三浦内左衛門ニ大組物頭役ヲ坂二郎左衛門ニ山口代官役ヲ楊井

平兵衛ニ上ノ關代官役ヲ命ス

十二日隠居半髪後謁見ニ關シ佐藤與三左衛門伺書ニ對シ遠近方指令左ノ如シ

覺

はね紙

此段順隠居之身柄御願仕半髪以後御目見に罷出候儀不苦候事

一順之隠居仕候者御願仕半髪に相成候以後御目見に罷出候儀可相成哉之事

はね紙

此段半髪之者の本人相果家續人無之と候而も半髪之者えは隠居返り不被仰付

候事

一右之半髪之者の本人病死仕家續人無之候時は右半髪之隠居は隠居返り可

被仰付哉之事

右之通御問仕候條御肩書相成候様被成御沙汰可被下候以上

八月三日

佐藤與三左衛門

奈古屋九郎右衛門殿

柿並半右衛門殿

十四日諸役所出勤刻限ニ關シ訓示左ノ如シ

諸役所出勤之面々頭人を始下役人手子の者に至迄兼而被相定置刻限有之事候御

番食認候者は朝五時を限り罷出橋向遠方の面々は御了簡を以五ツ半時迄に出勤

被仰付候尤御儉約の中番食御引せ宿本にて認罷在候面々は朝五ツ半時を限役所

出勤又遠方は四時迄に罷出候様御沙汰相成居下宿の儀は御藏元内の役所は三月

より八月中迄は八時より下宿被仰付九月より二月迄は七時下宿勿論不時御用有

之節増而月迫等に至候而は凡は暮詰仕六ツ時下宿依之日々勤不勤差別被仰付檢使見届相成御藏元外の役所も大概右に準たる事候然る處諸役所惣而多人數の内彼是不行届勤方も有之様相聞候頭人を始下役人中に至迄出勤の時刻遅く候而は一體の所御役所自惰樂に罷成御用も滞殊諸細工人等被付置日々御用相調候役所は別而役人出勤及遅々候而は其所作おのつから及懈怠御費の端にも相成甚以不可然事候右相定る刻限無相違猶其内をも可成程は早く罷出且又御用承懸り候面々下宿の節不差急能々御用相しらへ罷下候段可爲勿論候此後若御急用等有之銘々相定る出勤刻限迄に役人居合不申節其段何ぞ格別の御用にて理有之候は、御了簡も可有之儀偏流例など申立御用御間缺候におゐては越度に可被仰付候遠方住宅の者は稀の儀其外の面々孰も朝五半時迄に出勤候様頭人を初猶役人中能々相心得並下手子の者えも右の趣手堅可被申聞置候事

十九日西九下乗ニ關シ繪圖ヲ以テ發令左ノ如シ

年始五節旬月次其外西九え出仕の節西九大下乗所向後は西九大手腰懸角より七

本目の柱を限りに下乗に相成候に付登城有之候と駕籠挾箱等直に腰懸の方並御堀端の方え立番限りに片寄罷在出張不申候様に仕退出の節は主人見懸可罷出候右場所の外一向差置不申候間差圖相用混雜無之様に供の内頭取候者其外未々迄も急度御申付可有之候若制し候を不相用主人の姓名承届申立候筈に候尤場所え差引のため御徒目付御小人目付差出置候間差圖急度相用候様是又御申付可被成候右之趣私共より相達候様松平右近將監殿小出信濃守殿被仰渡候御同席中えも御通達可有之候以上

八月

神尾市左衛門

土屋長三郎

西九下乗所繪圖面 繪圖面アリ略

廿一日井原彦右衛門平川吉兵衛ニ大組物頭役ヲ命ヌ

同日本年兩國人員調査簿ヲ幕府ニ呈セラル總員五十一萬六千三百二十六人内男二十七萬四千九百三十四人女二十四萬三千三百九十二人ナリ

七年目定期上告
ノ發令ニ因ル

廿七日麻布邸大納戸藏保管武具修補銀紛失ニヨリ大納戸役中村太兵衛預付中脱出
池水ニ投身セリ審理ノ末太兵衛惡計タルコト判明セシニヨリ給米沒收嫡子清次郎
ニ禁足ヲ命ス

廿八日藏元役熊谷彦右衛門ニ大組物頭役ヲ命ス

廿九日目付役粟屋五郎兵衛辭職數十年地他國役勤務ニヨリ時服一下付

九月朔日大檢使役飯田與兵衛辭職ヲ許ス

同日大内義隆二百回忌ニツキ山口龍福寺ニ於テ法會修セラル米五俵香奠銀二枚納
付冷泉六兵衛扶持方成中ト雖トモ殉死之家筋ニツキ代拜ヲ命ス

五日三田尻町定市免許ニヨリ朔日ヨリ十五日ニ至ル市民救助ノ爲メ曲枕芝居輕業
許可セリ

七日大納戸器具検査ニツキ當役ヨリ大納戸役へ訓示左ノ如シ

覺

大御納戸御道具御見分之御沙汰有之候處請渡半且御當用も差湊御見分帳引しら

も難相成之由御用差問の段は無餘儀事候へ共御見分の儀被仰付候處其筋不相調
と候ては不相濟事候御當用多少の隙取候程の儀は不及力候其段は時々御斷の品
も可有之候條孰の道にも御見分の儀も取懸り候はて不相叶儀に候右引しらへ諸
控旁入組たる趣にて可有之候御當用の間相又は宿元にても得と相考相調候様無
之候ては御間あひ申間敷候間當番方の内一人非番方の内一人引除にして御見分
一卷の諸沙汰仕候様に被仰付可然事候付當番方にて境半右衛門非番方にて檜崎
源右衛門兩人引除にして御見分一卷の諸沙汰可被仕候尤半右衛門源右衛門引除
候事には候へ共一體大御納戸御道具引しらへ御見分の儀候へは殘役人中の儀も
右御用相構ひ不申筋にては會以無之候萬端申談候儀は勿論の事候半右衛門源右
衛門事も御當用の方をは離れ候て御見分一途計え引除候趣にては無之候間旁被
得其意都合の儀は同役中申談其内にて半右衛門源右衛門引請の心得にて何分に
て御見分相調候様に可有心遣候各兩人儀も隨分氣を付追々御見分相調候様に可
有沙汰候已上

寛延三年九月

志賀彌三兵衛殿

河北九左衛門殿

堅安房

八日本年諸臣祿高十五石掛ヲ給與セラル黒印令條老臣添書旅役出米並馳走出米段分左ノ如シ

年來所帶不勝手の段は今更改而申聞するにも不及儀至極差間に付而去年も出米の員數を減し無據馳走申付候其節も段々申聞せ候通上御代替に付前々に引替御勤の入用相増殊更打續き國役に付ての借銀持越其上積りの外不得止事臨時の造佐入莫太の儀當分の借銀も相増其債可申付絶方便已に參勤の料も難調に付而不及力又々家來中よりの出米申付の外無之段被聞召上候得共近年引續出米申付家來の面々も困窮至極の儀に付増出米は不及様に遂吟味候様にと重疊申聞せ猶令僉議といへとも彌各別の絶手段至て心外の儀ながら今來年も家來中より重き馳走請るの外これなく於下も此時の儀猶又随分儉約を盡し且々にも取續き奉公遂

くるにおゐては本望たるへし委細年寄ともより申聞すへき者也

寛延三年九月八日 御黒印

覺

御所帶累年御差詰の儀におひては今更改而被仰聞にも不及事候然共去寅年上御遣用を初重く省畧の御吟味有之六箇年間の御仕組被仰付其内三箇年旅役出米の外六石宛の御馳走被請至去年は漸一石減少旅役米の外五石懸りの御馳走被仰出候處去春も段々被仰渡候通天下御代替りに付ては以前に引替御勤の御造用相増殊に打續御國役に付ての御借銀持越且御積り之外不被得止事臨時の御造佐莫太の儀夫故古借利且納に引添當分の御借銀も相増其債可被仰付被絶方便已に御參勤御入用も難相調儀候然は不及力又々重く御馳走を被請の外無之其段及御開候處別而此儀御苦勞に被思食如何様に仕候ても増出來に不及様に遂吟味候様にと重疊被成御意候得共數十年の御差詰に引加右體不時御國役の御造佐の債御家中並地下より被請御馳走の外無之段猶又及御聞此上は御心

外なから其通に沙汰可被仰付旨候依之今來年旅役出米の外十石宛御馳走被仰付候條偏御奉公と被存可被遂御馳走候於然は面々内證御扶持方同前罷暮同列に不被拘一分々々儉約の心得肝要候左候へは一向御歎ケ間敷儀全不及御沙汰此外愁訴等被差留候段旁諸事實の年被仰出候通可被相心得候事

一寅ノ年爲内借捌百石に付三石宛の引米を以三貫目宛の借銀片付被仰付候へとも其後又々新借相滞候分も可有之儀に付爲御救今度改而百石一貫五百目宛の借銀公儀御惱にて七朱十箇年賦にして捌方被仰付前方の引米をは今來年調方延引被仰付候此段委細別紙に被仰聞候事

右之趣能々相心得候様可申聞旨候以上

午九月

益越中
堅安房
毛宮内
毛筑後

雲出

旅役出米並御馳走出米段分

一高百石以上

但旅役出米高百石に付現米五石宛御馳走出米高百石に付現米十石宛

一同七十石以上

但旅役出米並御馳走出米共高百石に付現米十三石三斗懸り

一同五十石以上

但同斷高百石に付現米十石二斗懸り

一同四十石以上

但同斷高百石に付現米七石六斗懸り

一同三十九石九斗以下

但同斷高百石に付現米五石六斗懸り

一足輕以下

但手取の現米十石に付五斗五升懸り

一病者幼少御扶持方成の儀此度の御馳走惣の當り五朱増に被仰付候事

一寺社家御馳走の儀は惣の當りの内三步二被召上残り三步一被差除候事

一米銀持合の者は勝手次第銀子にて差出候は、和市の儀は二石替御切錢の儀は

如古法五石和市被仰付候事

一被石えは出米被差免候事

一二人扶持計の者えは出米被差免候一人扶持にても切方持合二人扶持より上に

相候者の儀は出米被仰付候事

一御雇衆隠居料女中の恩扶持一步引にして被遣候事

右今來年御家來中旅役出米並御馳走出米共段分け右之通に候事

午九月

日不詳去々年來明倫館ニ於ケル馬術十文字驍方弓法等皆勤ニ由リ馬來宗四郎外二

十八人へ賞與差アリ檜崎權兵衛祖父以來三代繼續乘馬飼養ニヨリ銀十枚下付

十一日山縣重藏騎射公覽ニ供シ多數ノ子弟造就セシニヨリ銀二枚下付

十三日手元役和智九郎左衛門ニ藏元兩人役ヲ兼シム

十四日慈恩院殿元就公繼室平女百五十回忌洞春寺ニ於テ法會修セラル銀二枚米三俵納

付同日長府日頼寺ニ於テ法會執行御牌名根於長府智光院ト唱候由慶長六年丑九月十四日逝去トアリ

十五日毛利山城守廣豐萩ニ抵ル二十五日萩發二十六日歸邑

十九日去月二十六日京都二條城天守炎上ニヨリ去四日諸大名惣出伺是日公將軍へ

候問書ヲ呈セラル

廿一日笹川六兵衛ニ旗奉行ヲ命ス西御殿被官役伊藤猪右衛門二十二年間勤務隠居

ヲ許スニヨリ金五兩下付平岡彌三右衛門先代以來三十一年兵法指南門弟數百人薰

陶ニヨリ銀三枚下付

廿八日藤井九郎右衛門ニ大檢使役ヲ命ス山縣彌右衛門數年勤役辭職ニヨリ金五兩

下付

十月朔日直目付役原要人先代以來數十年勤績セシニ病痾ノ爲メ辭職ニヨリ召下羽

織一一代米三十俵宛下付明倫館學頭津田忠助外九人音樂用務苦勞ニヨリ各銀下付

三日公是日ヨリ三田尻巡行十八日歸城土著士族ノ文武ニ勉勵ナルモノ四人ヲ賞シ衣服及金ヲ賜フ又高壽二十一人及孝子六人ヲ賞シ鳥目若干文ヲ與フ

是時公狩獵之鹽鵝一箱鹽松茸一桶使者ヲシテ吉川左京萩屋敷へ遣ラル

四日大猷院殿百回忌結願ニヨリ諸大名ニ能舞看覽セシムヘキ大目付ヨリ同狀アリ

廿三日吉田八右衛門ニ目付役ヲ津田六郎右衛門ニ西御殿引除大檢使役ヲ三戸貞右衛門ニ大檢使役ヲ命ス

廿五日藝州吉田祗園社人波多野信濃守同齋宮萩ニ抵リ物ヲ獻ス城中ニ引キ料理ヲ賜ヒ金五百匹同三百匹ヲ賜フ

廿九日内藤喜右衛門數十年馬術指南ニヨリ銀三枚下付

十一月六日毛利山城守廣豐男專之助後大和守又石見守就嗣江戸麻布邸ニ生ル母家女

十五日江戸番手之輩奉公人ニ關シ訓示左ノ如シ

江戸御番手之面々随分途儉約且々にも御番手相濟候様令吟味候段勿論の事候然
は下人等をも見苦敷さへ無之候得は高恩の者不召抱候様にと前廉も被仰出猶寛
保三年御參勤前にも手堅被仰聞候得共江戸功者の人柄不召抱候ては御番手も不
相調様存入近年も高恩の奉公人召置候者も有之歎の様相聞候此等の儀儉約第一
候處不心得の者有之候得は初番手の面々は猶更奴子又は江戸案内功者の人柄を
第一に聽合召抱候様相成自から惣の奉公人も高恩を望惣而御番手一體の迷惑に
相成儀候江戸不案内にて御使者先に依軒宅難相知差問も可有之と相聞候は、其
節申出次第御付人被仰付候様にも可相成事候間いつれも申談高恩の下人召抱間
敷候前廉も度々被仰出候得共此度改而御目付方え御沙汰相成候條萬一不心得於
有之は急度被及御沙汰高恩を貪り候奉公人は重く可被相答候事

同日記録所出頭役粟屋主殿辭職召下上下下付陸番頭役永安平右衛門辭職多年勤務
ニヨリ金三兩下付膳方緒方仲介十八年指南多數ノ門弟教授ニヨリ金五百匹下付
十八日萩濱崎幸判七ヶ浦ノ獵祭及明木市救濟ノ爲メ十五段ノ繰許可セリ

廿二日都濃郡徳山町出火家屋八十六戸焼亡

廿九日三浦勘右衛門旅役出米ニ關シ八組中擲提出願スヘキ主唱者ニテ演說書ヲ以テ相番中ノ同情ヲ求メタルハ風俗ヲ亂シ條目違犯タルニヨリ隱居ヲ命シ家祿ノ内半額沒收逼塞ヲ免シ嫡子ニ家督ヲ命ス

晦日奥番頭大和伊織ニ直目付ヲ命ス

十二月二日梨羽與三右衛門ニ番頭役ヲ命ス

八日祥室妙吉弘元公室福原廣俊女元就公母二百五十回忌洞春寺ニ於テ法會修セラル銀二枚米三

俵納付

十五日今年マク數度大風洪水田圃損亡高二萬四千九十石餘家倒三百四十戸橋流失

二百三十所ヲ幕府ニ上陳セリ

廿四日玉川上水組合修築出金四十四兩一步銀十三匁一厘一毛納付

廿八日加判毛利筑後辭職留任

寶曆元年辛未改元十一月正月朔日公萩城ニ在リ歳首ノ賀式例ノ如シ然レトモ平生脚氣

猶ヲナシ客冬ヨリ寒威感冒病勢日ニ重シ

十三日繪師雲谷等珣去年十二月二十日失踪因テ家祿八十四石沒收

十五日大組物頭南方又八郎ニ江戸留守居役ヲ原九右衛門ニ大組物頭ヲ命ス

十八日堺鐵炮師笠屋與三右衛門萩ニ抵ル寸筒鐵炮一挺鑄鍋二枚獻納城中ニ於テ料

理ヲ賜ヒ銀五枚交付

廿八日公不例ニヨリ大赦ノ例ヲ以テ曩ニ放逐セラレシ輕卒三人ノ代役乞願ヲ許サ

ル
二月三日公親カラ病ノ治スヘカラサルヲ知リ遺書ヲ授ク左ノ如シ表書一門老中トアリ

申置條々

一我等家續之男子無之候付去年於江戸歸國之御暇被下候節當分之養子として毛利甲斐守を相願置候依之此度之病氣養生不叶候は、甲斐守え相續被仰付被下候様相願候間存此旨一門中を始年寄中其以下共に不相替無別心可遂奉公候甲

斐守事幼年と申にても無之候へ共入家の上當分家格旁不案内の事も可有之候
間何分守立候心得無遠慮尤文武忠孝の志を以家中國民を憐み國中の仕置宜相
立候様に各緩せ有間敷候事

一大小之家來面々の心得風俗肝要の事候就中一門老中惣して大身の面々より忠
義を本として同列相和品を不踰分過無之やうに互に禮讓の心得專要候尤當役
中におゐては別而私を不挾偏に當家の爲宜様に取計可爲專要候事

以上

寛延四年二月三日 御判

被仰置候御意之覺

一殿様此間之御病氣被及御太切候處御家續の御男子無御座候付御療養不被叶被
遊御逝去候は、去年御歸國の節當分御養子として御願置被成候毛利甲斐守様
え御家續の儀此度江戸表え御願被成候御家中の面々存此旨無別心甲斐守様え
御奉公可相勤旨候事

一公儀御法度並御當家の規矩堅固可相守旨候事

一御家來中何れも相和且禁止奢侈於盡忠誠は可爲御祝着旨候事

右之趣組支配中えも可被申聞候以上

二月三日

五日宇野與一右衛門ニ藏元兩人暫役ヲ命ス

七日公病重態ニ接ス家續願書ヲ齎シ益田河内休息出府親戚ト協議支藩毛利甲斐守
ヲ養嗣トセシム家督願書左ノ如シ毛利氏譜録ニハ加判完戸出雲監察田
阪源太左衛門等ヲ出府云々トアリ

私儀先頃以來足痛浮種相煩先達而御届仕候其後彌不相勝別而太切罷在候未た男
子無之候付去年國元えの御暇被下候節書付を以奉願置候通配地の末家毛利甲斐
守當年二十七歳罷成候間私病氣養生不叶死去仕候は、此者え無相違家督被仰付
被下候様奉願候依之申上候以上

二月七日

御

名

長府家續人願書

甲斐守在所妾腹の男子七歳に罷成文之助と申者有之候出生の砌より虚弱に付御届不仕候處段々丈夫致成長候間當春御届可仕由私國元え及相談候付御届可申上と奉存候右文之助儀追而分地仕末家に仕候様申合候右文之助事末家に仕候譯は私於國許懷妊の婦人有之候若男子出生仕候者往々甲斐守嫡子相願可申候若虚弱に御座候は、先達而出生の娘國元に罷在候間相應の者御養子相願右娘と取合候存寄御座候此段被聞召置可被下候以上

二月七日

御

名

同日實ハ公萩城ニ卒ス實三十五

八日幕府へ申報ノ爲メ原安右衛門ヲ出府セシム申告左ノ如シ

松平大膳大夫於國元病氣養生不叶去七日之夜死去仕候段今日申來候依之御届申上候以上

二月二十六日

松平式部少輔

松平大膳大夫二月七日就死去忌掛之覺

母	法林院	宗廣娘
曾祖母	長壽院	毛利甲斐守
從弟	有馬日向守	同人母
叔母	有馬左兵衛佐妻	從弟
從弟	松平式部少輔妻	有馬日向守妹
從弟	有馬日向守弟二人	
叔父	松平大炊頭	從弟
從弟	松平大炊頭次男	一條殿政所
從弟	松平土佐守曾祖母	

十六日中村玄與ニヒ役ヲ命シ出府セシム

十七日椿郷西分ノ天樹院大照院ニ葬ル二十一日ヨリ二十五日ニ至ル佛祭修營諡曰

觀光院殿天倫常澤大居士

廿日曩ニ公病ノ篤ヲ幕府ニ報セシム於是幕府書ヲ賜テ公ノ病ヲ訊問セラル幕書謹

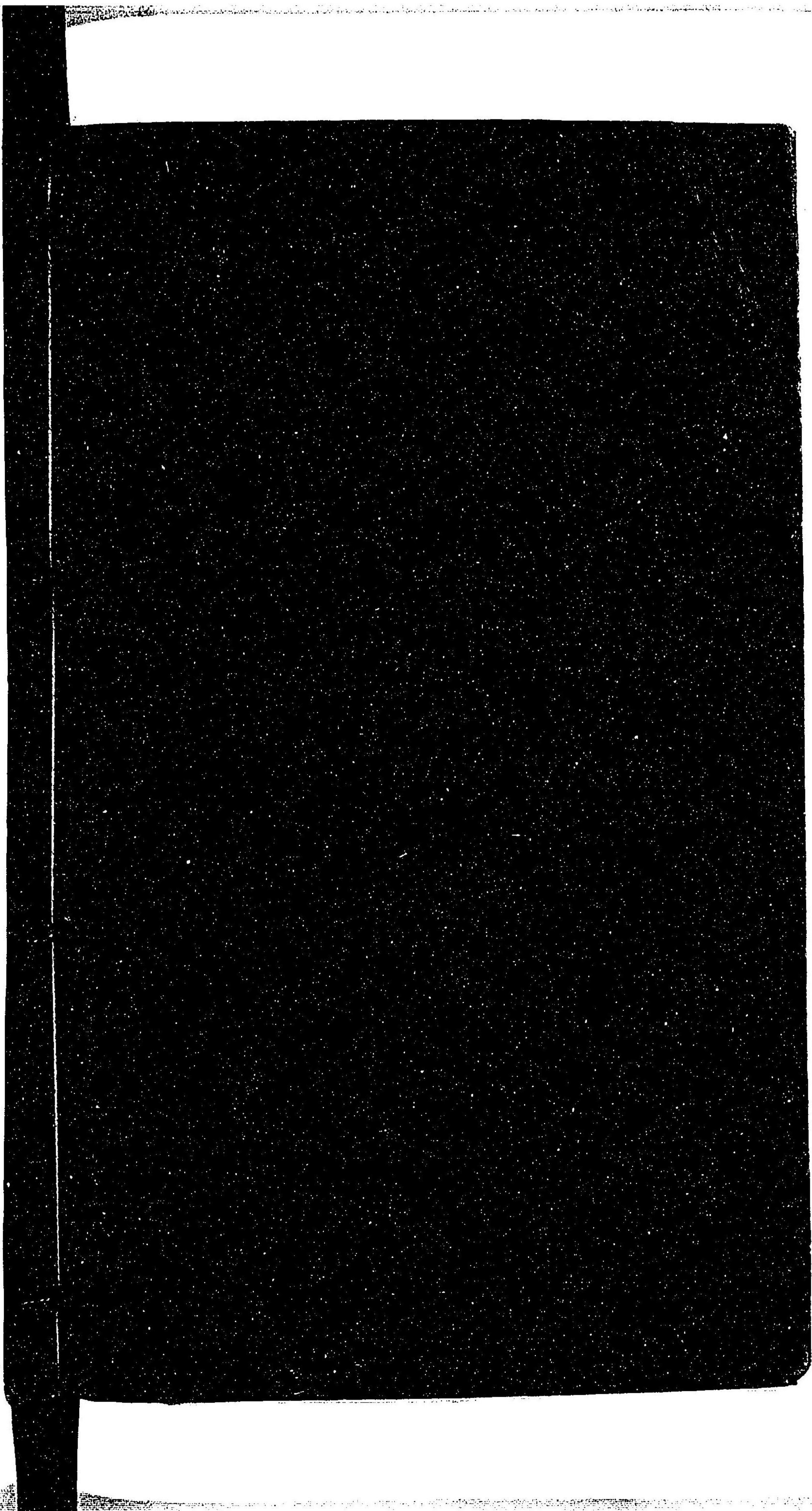
送使大坂ニ至リ公ノ凶訃ヲ聞キ直ニ江戸ニ歸ル三月三日奉書ヲ返上シ改テ一族中拜見之事ヲ願フ茲ニ因テ同月四日許命ヲ蒙リ再ヒ之ヲ拜受ス

廿五日末家毛利甲斐守匡敬ヲ以テ宗廣ノ家督ヲ繼シメンコトヲ願フ四月十二日許

可アリ願書案ハ二月七日ノ書案ニ載ス

三月二日將軍ノ使者奏者番森川兵部少輔來弔香奠銀三十枚ヲ賜フ如例

246
42
231



246
42
23

三

代史

卷六